

# 袴のたゝみ方

図1

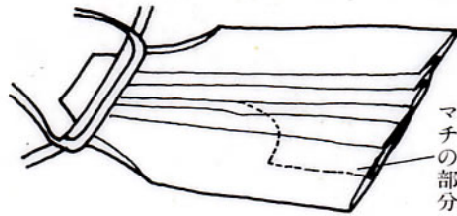
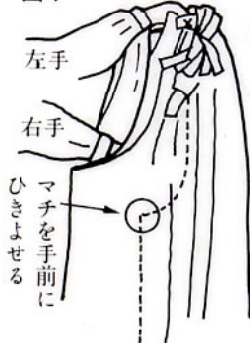


図2 紐を左にはねて、マチを右におちつかせる

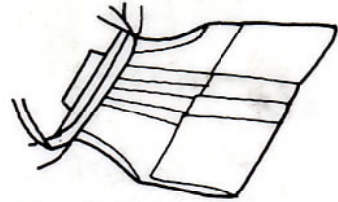


図3 裾の方からき折りたたむ



図4 その上に紐付をきかさねる

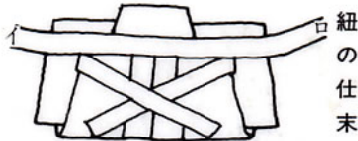


図5 前紐を下から後身頃の上に出し半分に二回たたんで十字に交叉させておく

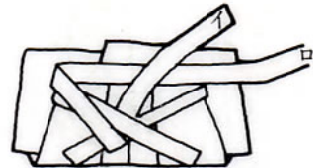


図6 後紐の(イ)を前紐の十字の上にかぶせて下からくぐらせて上に出す



図7 ②の(イ)の紐を左にかぶせる



図8 (イ)を横下からくぐらせて上に出し右に交叉した前紐にかぶせる

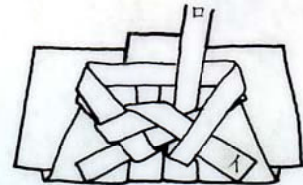


図9 後紐の(ロ)を前紐と(イ)の十字の下からくぐらせて上に出す



図10 (ロ)を右横にかぶせ下からくぐらせて上に出す

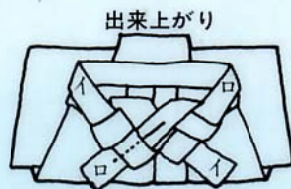
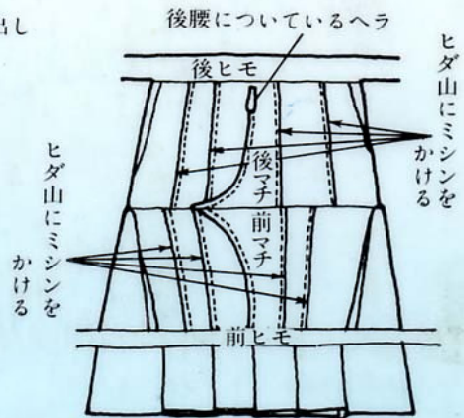


図11 (ロ)を左斜下に折るかぶせ左の前紐にそわせて(イ)の紐の中を通して左下へ出す



## 足袋の洗いかた

昨今は、ふき掃除にダスキンを用いる道場がふえてきましたので足袋もかなり汚れるようになりました。

用意するもの…洗濯板、亀の子たわし、固型洗濯石鹼

- 1、帰宅したらすぐぬるま湯につけておき、なるべく早く洗います。
- 2、(イ)洗濯板の上に足袋底を上にしておき、特に汚れている部分(かかと、つま先など)に石鹼をつけ、たわしを往復させて汚れをおとします。

(ロ)足袋の甲の方も、ざっと洗います。

(イ)つぎに足袋の中に手を入れ、底の汚れの残っているところへ中から指をあてて、石鹼をつけ、たわしで汚れをとります。

(ニ)つぎにぬるま湯の中で、汚れていた部分を中心にこまかくもみ洗いをし、石鹼分を洗い出します。

(ホ)二回はどすぎ、水がきれいになったらよくしぼり、手のひらでたたいてしわをとり、形を整えて干します。